

## 30年11月分

## 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 11月1日～ 30年11月10日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
11月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
入荷動向	国産材製材品	△ 21.4	△ 28.6	△ 21.4
	外材製材品	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	その他	—	—	—
販売動向	国産材製材品	14.3	△ 7.1	△ 7.1
	外材製材品	0.0	△ 8.3	△ 8.3
	その他	—	—	—
在庫動向	国産材製材品	△ 21.4	△ 21.4	△ 14.3
	外材製材品	△ 25.0	△ 16.7	△ 8.3
	その他	—	—	—

・国産材、外材製材品の入荷動向は3カ月連続減少。

・国産材製材品の販売動向は11月の増加から12月、1月は減少に。外材製材品は11月の横ばいから12月、1月は減少に。

・国産材、外材製材品の在庫動向は3カ月連続減少。

## (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
スギ	柱角 KD10.5×3	7.1	7.1	7.1
	柱角 KD12×3	7.1	7.1	14.3
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	7.1	0.0	0.0
	母屋角	14.3	7.1	7.1
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	7.1	7.1	7.1
	加工板	8.3	0.0	0.0
	ヌキ	14.3	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	7.1	0.0	0.0
	土台角 12×4	7.1	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	0.0	0.0	0.0	
米マツ割物	0.0	12.5	0.0	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	20.0	20.0	10.0	

・スギは柱角KD10.5×3、12×3、母屋角及び間柱がやや強含み。その他の品目は保合。

・ヒノキは保合。

・カラマツ土台角10.5×4は横ばい。

・米マツ平角横ばい、割物は保合。

・北洋エゾマツタルキ横ばい、北洋アカマツタルキは強保合。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・米ツガ入荷少ない。アカマツ30×40 3mがない。WW間柱系がない。スギ丸太少ないらしく入荷少ない。販売動向は変わらず。在庫・元落動向はWW、アカマツ30×40等買えないものが多い(関東)。
- ・丸太は不足しているが、商品の価格転嫁は進まず(中部)。
- ・プレカット工場の稼働状況が良くなってきたが、市場出しは低調。今後も市場への出荷量は下がる可能性が高いため、入荷量は減少していくとの見通し。販売動向は、外材製品の販売が減少しており、国産材の販売が11月以降上向いたが、12月以降は減少するものとする市場関係者は多い。在庫を調整し、仕入れコストが高くなり過ぎないように警戒している市場関係者が多い。在庫量は国産材・外材ともに少なくなっているが、対応できる(中部)。
- ・台風、豪雨の影響で国産材原木は不足。外材もWW、アカマツとも輸入量が減少し不足している(大阪)。

(価格動向)

- ・スギ柱角(KD10.5cm) 65,000円/m<sup>3</sup>、(KD12.0cm) 65,000円/m<sup>3</sup>、スギ桁角(東北材・グリーンラフ) 43,000円/m<sup>3</sup>、母屋角(東北材・二等) 30,000円/m<sup>3</sup>、スギタルキ(東北材) 45,000円/m<sup>3</sup>、スギ間柱(特・KD) 63,000円/m<sup>3</sup>、スギ加工板(東北グリーン材) 束2,800円、(KD) 束4,800円、スギヌキ(東北材) 43,000円/m<sup>3</sup>、秋田材52,000円/m<sup>3</sup>、スギ平割(プレーナー) 45,000円/m<sup>3</sup>、同(ラフ) 43,000円/m<sup>3</sup>、ヒノキ柱角(KD)・土台角10.5cm、12.5cm 85,000円/m<sup>3</sup>、米マツ平角 KD 70,000円/m<sup>3</sup>、米マツ割物AD 75,000円/m<sup>3</sup>、北洋アカマツタルキ(アSEMBル単価) (S) 73,000円/m<sup>3</sup>、(P) 63,000円/m<sup>3</sup>、(バンドル単価) (S) 70,000円/m<sup>3</sup>、(P) 60,000円/m<sup>3</sup>(関東)。
- ・小径木丸太少なく欠品商品も見られるが値段は上がらず。特にスギが少なく地域的に量が出ない(中部)。
- ・スギ柱角現状維持。集成材とヒノキの柱が高くなれば、スギ柱の価格も上昇する可能性がある。スギ製品価格は、全般的に現状維持。米マツ製品の需給と価格の動向によっては、タルキ、間柱の価格に変化がある可能性がある。現在は需給と価格の変化に変動は見られない。ヒノキ柱角は現在横ばい。集成材の使用割合が高くなってきており、ヒノキ製品価格に影響が出てくる可能性がある。ヒノキ10.5cm土台角は現状維持だが、品物の不足感も出てきた。12cm土台角は価格が下がりにくい状況。通し柱は使われることが少なくなってきたため、多少の値下げに応じている。外材は、米マツの国内製造メーカーに1社が撤退することによって、受給と価格が不透明になりつつある。現在は横ばいだが先は分からない。北洋エゾマツ、アカマツタルキは高値で安定している。現地の価格が高いため、日本の商社が輸入する価格も高く、市場出しも高い価格のままとなっている(中部)。
- ・北洋アカマツタルキ、WW間柱不足で値上り(大阪)。
- ・スギ原木は高騰しているが、特別市があったため単価上昇はない(九州)。